

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 可知 悠子

本研究は、生理学的研究によって明らかになりつつある短時間睡眠と糖尿病発症との関連の一般化可能性を検討するために、19～64歳の男女労働者を対象とした3年間の追跡調査のデータを用いて、睡眠時間と糖尿病発症との関連を分析したものであり、下記の結果を得ている。

1. ベースラインにおける睡眠時間と追跡期間中の糖尿病発症との関連を、年齢、職区分、喫煙、飲酒、コーヒー摂取、運動習慣、抑うつ感、降圧薬の使用、糖尿病家族歴、BMIの影響を統計的に調整して分析した。その結果、女性では、ベースラインの睡眠時間が6～7時間未満であった者と比較して、4時間未満の者では2.4倍、4～5時間未満の者では1.6倍、8時間以上の者では2.4倍、糖尿病の発症リスクが高いことが示された。
2. 男性では、睡眠時間と糖尿病発症との間に有意な関連は示されなかった。これは、男性のサンプルサイズが十分でなかったためと考えられる。

以上、本論文は女性において、睡眠時間が短くても長くても糖尿病の発症リスクが高くなることを明らかにした。本研究の結果は日本人女性では初めて明らかになったものであり、また、糖尿病の一次予防対策に貢献するものであり、学位の授与に値するものと考えられる。